
仙台市市民協働事業提案制度 令和3年度事業 事業報告

「仙台を花の街に」計画

一般社団法人「花降る街、仙台」



仙台市、市民、企業と共に 仙台駅前から風景を変えたい。

緑豊かな仙台は、私たちの誇りです。
400年前、伊達政宗公の時代から市民の手で街の木々を守ってきた
「杜の都」を、未来へと繋ぎたいと強く願っています。

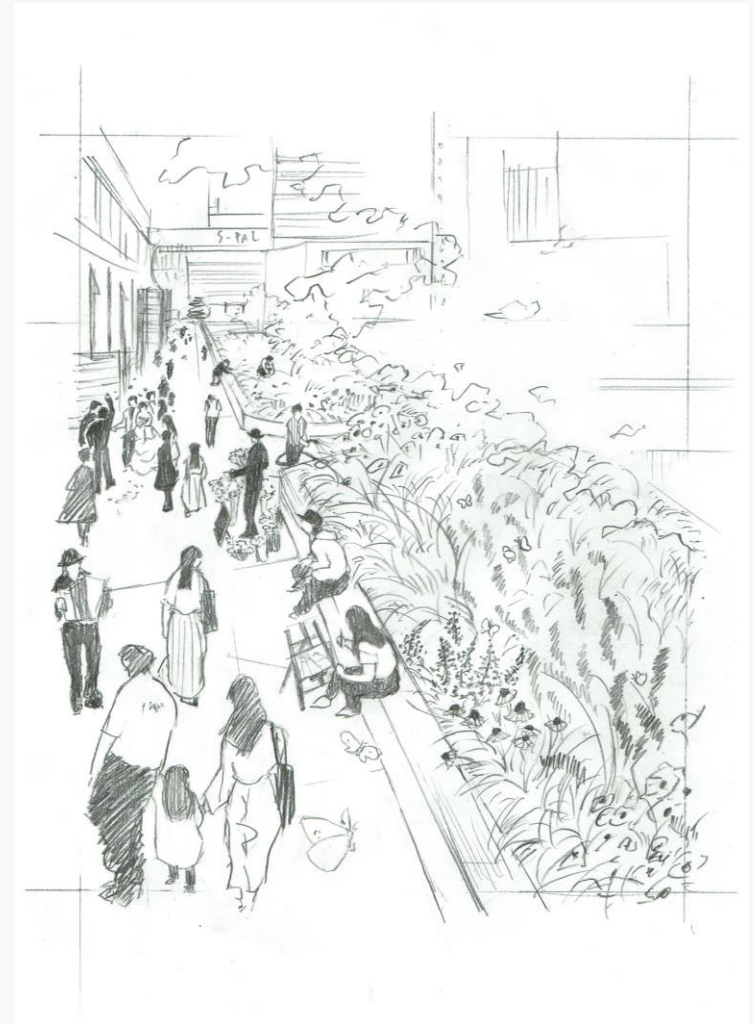
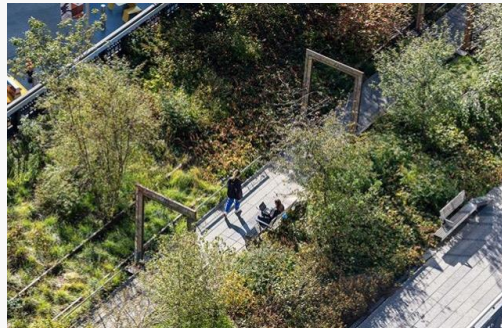
ただ、仙台・東北の玄関口でもある仙台駅は
今は杜の都を感じられる風景とは言い難く、
また、市民の手で「杜」を守っている場所でもありません。



ペDESTリアンデッキに 「杜の都、仙台」としての風景を。

花壇をつくり、花や緑の自然溢れる風景をつくるのはもちろん、
仙台市、市民、企業と協働しながら、
そこで人と人との交流の場を創り出し、
「杜の都」の文化を根付かせます。

みんなの手で これから先の100年も続く
「杜の都、仙台」を創り出す 街づくりを行います。



初年度で植え替えた花壇

市民約60名とスタート。
植物を通じてコミュニケーションや支援が増えた初年度。

宿根草をメインに、春の風景・夏の風景・秋の風景・冬の風景、
植物の成長を感じる事のできる花壇に植え替えました。

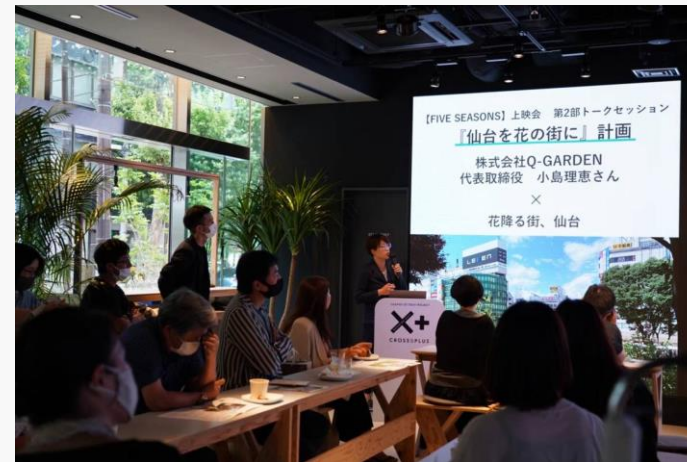
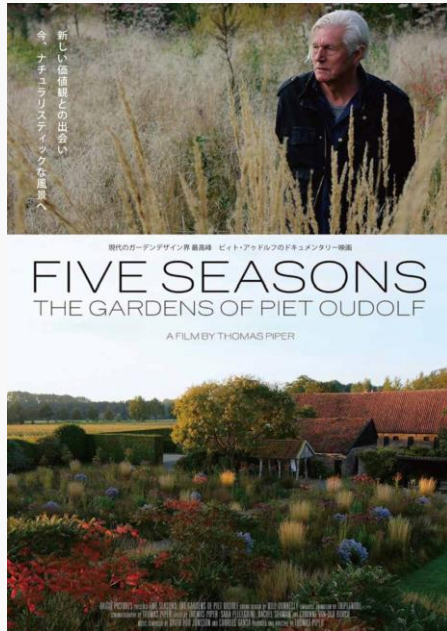
珍しい植物たちに目をとめて立ち止まる人が増え、
メンテナンス参加者も、支援企業も徐々に増え、
植物を通じてのコミュニケーションが増えた事を実感しました。



- A) 宿根草などを用いたナチュラルスティックな情景の共有
- B) 社会貢献を含めたより幅広い市民の参加を促進する仕組み
- C) 事業継続に向けた事業費の確保

実施内容

A) 宿根草などを用いたナチュラルスティックな情景の共有：映画上映



のべ220名の方に世界観や哲学を共有。
トークショーでは、緑化フェアデザイン担当の小島理恵さんと
熊本緑化フェアで活躍された、永村裕子さんに登壇いただき、
ナチュラルスティックガーデンの遍歴やローメンテナンスな街並み形成について講演。

実施内容

A) 宿根草などを用いたナチュラルスティックな情景の共有：北海道視察



道内7ヶ所のガーデンを視察。
デザイナーさんやオーナーさんから実際にお話を伺いながら見学。
デザイン手法から運営手法まで、内部の具体的なお話をお聞きする事ができた。

実施内容

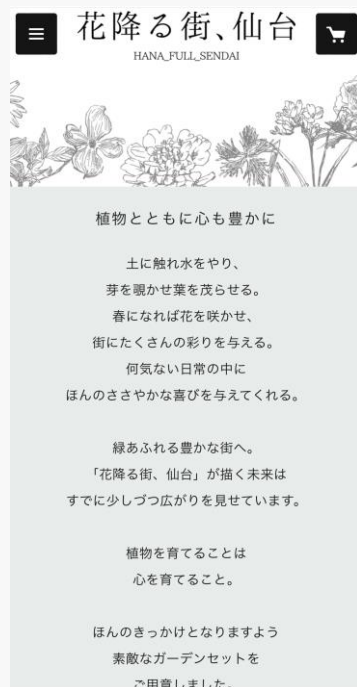
B) 社会貢献を含めたより幅広い市民の参加を促進する仕組み：チーム制導入、メンテナンスBOX



チーム制での花壇メンテナンス。世代を超えての学びやコミュニケーションを図れた。
花壇内にメンテナンスBOXの設置。
これがある事により、市民が気軽に参加できる仕組みができた。
コロナ禍により、外部講師を呼んでの講習やメンテナンスの実施が難しかった。

実施内容

C) 事業継続に向けた事業費の確保：ECサイト、企業看板



ECサイトをオープンさせ、一般の人が植物を楽しみながら寄付をできる仕組みを構築。
青葉通まちづくり協議会さまの協力のもと、青葉通に企業看板の設置ができることに。

A) 宿根草などを用いたナチュラルスティックな情景の共有



現地では足をとめて楽しむ方や、写真を撮る方が多く、
今までと違った花壇の魅力を実感していただけました

B) 社会貢献を含めたより幅広い市民の参加を促進する仕組み



爆発的とはいかず、少しずつ少しずつの拡がり

C) 事業継続に向けた事業費の確保



苗代の確保にとどまる。事業運営や人件費の確保までは難しかった